

神戸新聞社 × 紀伊民報
防災に挑む!!
学びの探究
アドベンチャー

「防災」テーマに探究ワークショップ

和歌山と神戸つなぎ開催 中高生や教員約40人が参加

阪神・淡路大震災から30年を迎えた兵庫県と、南海トラフ巨大地震に備える和歌山県。神戸市に本社を置く神戸新聞と田辺市の紀伊民報が連携して、中高生を対象にした探究学習のワークショップ「防

災に挑む!!学びの探究アドベンチャー」を開きました。食をテーマに避難生活を豊かにする発想法や、初対面の人とのコミュニケーションの取り方などを学びました。

和歌山県情報推進協議会(WIDA)、食育のワークショップ会社omochi(おもち)が共催。ベネッセコーポレーションが協力。和歌山県教委、神戸市、こどもの創造的学び推進実行委員会が後援しました。

2024年12月21日にオンラインのイベント、26日に串本古座高校(和歌山県串本町)と神戸新聞本社会議室をオンラインで結び、基調講演とワークショ



探究ワークショップの指導をする前田健志さん(中央)＝和歌山県串本町の串本古座高校で



災害の記録後世に

神戸新聞の三好さん講演
26日ははじめに、神戸新聞NIE・NIB推進部シニアアドバイザーの三好正文さんが「災害は記録と表現者を必要とする」をテーマに講演。災害を記録して歴史にとどめ、後世に伝えていくことが重要だと強調しました。

地域や世代超え、問い学ぶ



付箋に興味や好きなことを書き込む参加者(串本古座高校で)

「地鳴りがすく、室内のいろんなものが飛んできました。ロッカーが滑ってききました。窓ガラスが全部割れました。神戸新聞社は新聞制作ができなくなり、京都新聞で制作・印刷してもらいました」と自らの被災体験を話しました。

続けて、三好さんが取材した震災直後の神戸市内の状況や、復興と新しい街づくりへの歩み、正しい情報を伝えるために新聞が果たした役割などについて説明。「震災の記憶のバトンを若い世代に渡したい。忘れないことが大切。震災30年に当たってその教訓を生かすことを」

石川県在住で、能登半島地震を体験した前田さんは「避難所ではストレスがたまり、言葉や正論では人は動きません。皆さんならどうしますか」と参加者に問いかけ、アイデアを募りました。その上で、避難所になった小学校で、掲示板に子どもたちの書道作品を張り出すことで場が和んだことなどを紹介するなど、災害現場での実例を挙げながら問いの立て方を指導しました。

オンラインで プレイベント

12月21日のオンライン・プレイベントの講師は株式会社omochiの土井仁吾さん。食を通じて自分の価値観を知り、被災後の生活を想像する問いに取り組みました。

土井さんはまず「試験勉強や仕事などの日常生活で心や身体の疲れをいやす食



土井 仁吾さん
omochi代表

作れるかもしれないと初めて知った。災害時の避難所生活についてももっと深く知りたい」と話しました。



オンラインで開催された探究ワークショップのプレイベント

和歌山からの中継に 10人参加 神戸会場



和歌山からの中継を見ながらワークショップに参加する神戸会場の高橋さん(神戸新聞本社で)

神戸会場は、神戸や京都、大阪の高校生や教員ら10人が参加。高校の校長先生も加わりました。探究ワークショップは、大型スクリーンに映し出される前田さんの指示と、ベネッセコーポレーションのフォロワーの下で行われ、2班に分かれて取り組まれました。西田京太郎さん(中学3年)は「テーマをどう広げていくか、問いの方法が分かった」、高校2年の参加者は「私を知るテレビや交流サイト(SNS)

読者アンケート

本ページの特集について感想をお聞かせください。神戸新聞でアンケート集約し、紀伊民報と結果を共有し、今後の企画の参考とします。2次元コードまたははがき、手紙、ファクスでお送りください。抽選で3名様に粗品をお送りします。

郵送は郵便番号650-5871(住所不要)神戸新聞社メディアビジネス局営業部、防災アドベンチャー担当まで。ファクスは078-361-7802へ。



の情報は「握りなだ」と「ろんなことを知りたくなかった」と話していました。

参加者コメント

串本古座高校1年生 さいのぞみ 雑賀 望さん(16歳)
阪神淡路大震災のことを写真では見たことがありましたが、講演を通してより深く考える機会になりました。
ワークショップでは価値観の違う人と共通点や相違点を見つけ、さらにそれらを深めるというのがとても楽しかった。すごい機会になりました。

串本古座高校2年生 丹野 悠飛さん(16歳)
講演では、初めて見る阪神淡路大震災の写真も多くあり、さらに実際に震災を目の当たりにした方から話を聞くことで当時の現状をより鮮明に知ることができました。また、それがとても恐ろしく感じました。
ワークショップではグループワークの難しさを乗り越えられたような感じがしました。価値観が全

協賛企業

防災に
挑む!!

学びの探究アドベンチャー

協賛企業の紹介は特設サイトから。
和歌山県の企業は、日本の食文化や地域経済を支える取り組みを、兵庫県の企業は被災当時のエピソードやBCPの考え方、防災食レシピなども。ぜひご覧ください。



《和歌山県》

株式会社 山長商店

紀州梅干 4里庵

中田食品

QualitySoft

FUKUHARA
福原ニードル株式会社

INNOVATION SPRINGS

なかつ

KANASE 株式会社力ナセ
Kanase Inc.

《兵庫県》

KOBE HARBORLAND

MCC
味の感動を伝える。エムシーシー食品

TANAKA KANESUKE SHOTEN
STEEL SHANK

e431
ネットであつたんご資料

泉平 izuhei